広島平和記念式典派遣事業に参加して

S．H．

私が訪れた場所や学んだことを紹介します。私は５か所訪れましたが、その中で特に心に残った３か所を紹介します。

１か所目は、平和記念公園です。記念公園は、１９４５年（昭和３０年）に平和の象徴として作られました。公園ができる前は、中島地区という繁華街がありました。商店や映画館などがあり、にぎわっていました。

ですが、原爆が落ち、一瞬で繁華街が真っ黒な町になりました。死体が転がっていたり、皮膚がただれている人がいたりしました。それを負の遺産として残すために、今の平和記念公園ができました。

記念公園の中には、原爆ドームや平和記念資料館などがあります。原爆が落とされる前と後の建物の姿はずいぶんと違うので、原爆はすごく恐ろしいものなんだなと思いました。

公園の中には平和の灯があります。世界から核兵器が無くなったらその灯は消えます。みんなの平和の願いが込められてる灯です。私は早く世界から核が無くなってほしいと願っています。

２か所目は平和記念資料館です。展示品の中には、被爆時の遺品や写真がありました。遺品には、ボロボロに破れたり、そでが切れてこげていたり、血がついている学生服やワンピースなどがありました。

その中でも３人の中学生の遺品が印象に残っています。帽子やベルト、学生服、ゲートルというズボンの上から帯状の布で巻いたものが展示されていました。今の学生服と違うところは、女子はもんぺというズボンの着用が強制だったり、男子は国民服という陸軍の軍服に準じ、甲乙があります。ボロボロの服だったので、原爆の怖さをあらためて感じました。

佐々木禎子さんは２歳で爆心地から約１・６㎞の所で被爆しましたが、無傷でした。運動会はリレーの選手に選ばれていました。しかし、被爆から９年後、小学３年生のときに白血病になりました。放射線が原因でした。禎子さんは、千羽鶴を折ると病気が治ると信じていました。

ですが、亡くなってしまいました。私はその話を聞いて、禎子さんが病気を治したいという強い思いで千羽鶴を折り続けたのが伝わってきました。まだこれから輝く未来があるのに、亡くなってしまったのは悲しいなと思いました。

３か所目は、旧海軍兵学校です。１９４５年（昭和１１年）に建てられました。資料約１０００展が展示されています。

印象に残ったのは、特別攻撃隊員の遺書です。遺書を書いた人の中には、家族を残して亡くなった人や、自分の血で遺書を書いた人もいました。

私は、「僕は先に行ってます。」という言葉が心に刺さりました。家族を残して死んでいった人たちを思うと悲しい気持ちになりました。

教科書では分からない戦争を広島に訪れることで実際に見て知ることができ、平和の尊さを強く感じることができました。

私が今、平和のためにできることは、広島に行って聞いたことや見てきたことを生かして、戦争の怖さと核の怖さ、それがもたらす被害とつらさを家族や学校の人たち、そして多くの人たちに伝えていくことです。私は今後、世界から戦争や核が無くなっていくことを願っています。